

2017/4/8

## (日々雑感 72) 昨日の小加筆版



「びんぼー、びんぼー、貧乏同士！！」

そう唱和した後、手に手を取って思わず二人で飛び跳ねました。

早速行った地元の中国料理屋さんでの俊麗と僕でした。もちろん旦那さんの鄧さんも一緒にやりたかったらしいのですが、いかんせん厨房の中なので、参加できなかつただけのことです。

俊麗と鄧さんは、千葉で商売に失敗して、貧乏。僕も第一回目の事業に失敗し、且つまた、諸般の事情で、家もお金もなくなって貧乏。

訊けばふたりは借金をしてお店を始めたわけではなく、自分たちが来日して、稼いだお金を投じて、その分がすっからかんになってしまった。

一方僕は、スッカラカンになったわけではないけれども、前回起業の際の業務を廃業せざるを得なくなり、別件の理由からとは謂え、家と手元資金もなくなった。

でも、ふたりは、あっけらかんとして明るいし、僕も「さてと、それでは又やるか！」とあまり気にしていない。

それで

「その割には元気だな」といい

「またやる？とても良いこと！」

と言われて、更にその先

「おなじ、おなじ。ちょっと、ちょっと、うれし！」

「だな。じゃあ、これから一緒に、チャーユーだな！チャーユー！（中国語で頑張るの意）」

で、大歓び。まるで子供。

ここに至るには「どうして此処に戻ってきたんだ？」と訊き、「そいえば、会社どうしたか？」

と訊かれたお互いの経緯を、話し言葉では分からないので、「紙もってこい」と俊例に言って持ってこさせ、図解、絵入りで漢字筆談。

俊麗がホンモノの中国語で書くとぼくが理解できないので、変わって僕が、日本語中国語で何枚も紙に書いて会話しました。こういうとき、漢文化圏共有民族であることはとても助かります。

一例を取ると、

「何故、再帰、当店？総経理、希求、你？」とか「事業失敗。無銭、現在」だけど、と日本語の話し言葉で繋いで「無問題。理由、是、不敗心、再起挑戦心、腹中在、日々挑戦中、完全無問題！」というような具合です。

それによると、僕の話はともかく、俊麗夫婦が、店を閉じる前にこのお店の総経理（社長）の小川さんから電話が掛かってきて、売上が減っているから戻ってきて手伝って欲しいと言われたようです。

それで思い当たったのですが、鄧「小平」さんと長俊麗夫婦（中国では夫婦姓が異なるのです）がいなくなった後に来た中国人スタッフが、ホール係の若い女の子はあまりにも無愛想だし、厨房の料理人は無駄口ばかり叩いていて、あまりにも手が動いていないので、料理が出る時間も遅く、いつしか自分が店から足を遠ざけた経験から

「鄧さん、手をいっぱい動かしていた。俊麗いつもよく動いて、あいそも良かった。だからみんな来た。それ、無くなった。みんな来なくなった。売上減った。総経理、慌てた。で、電話、俊麗にした。だろ？」

「うん、そう。多分」

「でも、俊麗達、戻ってきた。復帰来了。だから僕もこれから復帰来了。けど、みんなが戻ってくるには時間が掛かる」

「そうそう。お店、お客さん、前に比べてとても少ない。今日もヒマ」

「お昼のランチもヒマ？」

「うん。そ。社長さん、お昼、禁煙にした。お客さん来て「え、禁煙になったの？」て、言って、四、五人連れのお客さんたち、来なくなった」

「禁煙で来なくなったと言うことは男の客が多かったと言うことだわな。で、どうして、禁煙にしたの？」

「此处で昼間、働いている若い中国人の女の子、煙きらい。煙あると働かないと社長さんに言ったある」

それを聞いて、また俊麗に紙を持ってこさせて

「選択肢有。一。喫煙復活策。二。女性客誘導策。仮定選択二。生野菜献立増設。玄米、五穀米追加。健康志向。看板、玄関掲載。元愛想有中国人職員復帰宣伝、如何？」

と書きました。

そうして

「男は女、大好きだぞ。女が来れば男も付いて来る」

と言って、えさが欲しいのにお預けを食ったがために、ペロを出して、ちんちんをする犬のまねをすると、俊麗は、そのことを中国語で厨房の中の鄧「小平」さんに笑いながら話し、鄧「小平」さんも確かにそりゃ一理あるわ！と言うような顔をし、面白がって大笑いしました。

「俊麗、国、関係ないぞ。どこの国の男も女も一緒や。男、女好き。愛想良いのは、男も女も好き。わかった？分かったら、一緒に「復活策考案」（此処だけ漢字で筆記）しようぜ」「うん、でも社長さん、何て言うか・・・」

「俺は客だ。だったら客の俺が話してやる。ついでに「総経理、懇願、你等復帰」（又ここだけ筆談）なんだから、給料も上げてやれって言おうか？」

「給料、社長さん決める。わたし、分からない。何も言えない」

それを聞いて、本当にこの夫婦は、若いのに今時の拝金主義満艦飾の中国人にしては珍しいメンタルの持ち主達だと思いました。一体どういう育ち方をしたのか？

そう言えば、一歳半の娘さんの話にもなりました。

「俊麗、二人が働いている間、お嬢ちゃんはどうしてんの？」

と訊くと

「中国にいる。姉さん夫婦が面倒みてくれている」

とのこと。やはり、残留日本人孤児を育てるみたいなメンタルが残っているのかなとおもいつつ、そのことには振れずに、

「名前はなんていうんだ？」

と、更に訊くと漢字で「綺夏」と書きました。意味を尋ねると、困った顔になったので、当てずっぽうで、「夏に倦まれたんだろう」と言うと「うん、そ」と答え、「綺」の字に「奇」があったので、「奇=珍」か？と書くと「うん、うん」と言うので、

「珍しい夏かあ？なんだそれ」

「中国、寒いのが長い。夏、短い」

「そっか。じゃあ、短い夏、有り難い。みんな大切に思う。みんなが大切に思ってくれる子、と言う意味か？」

「そ、そ、そう。それぞれ！」

先ほど、中国では、夫と妻の姓が違うと書きましたが、話を進める中で、それ以外にも、英語で言うところのファーストネーム、ファミリーネームとは別に、第三のネームがあるらしいことを知りました。

それというのも、これまた推測で言ったのですが、

「ひょっとして、中国で夫婦別姓になったのは毛沢東以降のことではないか？」

というと、その通りだと言い、

「夫婦別姓だからどこの夫婦の子か分からなくなるから、三番目のネームをつけるようになったのか？」

と訊くと、俊麗は大きく何度も頷いて、「恩賜」と紙に書きました。

それで僕が順番坐位を整理して「一（家）、恩賜。二（別姓夫婦）、鄧、及又、長。三（子）、綺夏」と書くと、更に激しく頷きました。

「恩賜」

その文字をみて、そういう意味の、人工的に後付けでする第三の名前を選ぶメンタルを思うと、やはりこの夫婦というのか家族というのか、あるいは妹の子の、綺夏ちゃんを預かって育ててくれる姉さん夫婦も含めた一族というのか分かりませんが、今の中国とは別の血脈、気脈があるような気がしたのです。何かはさっぱり分かりませんが。

会社を辞めるに当たって、ひとつ「日本を良くし」でもすっか？と誇大妄想的な願望を抱いて、どうせなら海外からの目でも見られるようにしよう。海外と繋がろう、にいつしか広がり、更にその先、何でも題材になる、一見無関係に見えるものでも、いつかどこかで繋がって役に立つことがあるかもしれないから何でもやってみるか！

どのみち、会社だって日本にある、自治会だって日本の一部、お店だって街だってそう。ならば、何をどこでやっても全部関係ありそうだし、繋がっていきそうだから、そのうち相乗効果が出てくることだってないわけじゃなかろう、と更に妙な誇大妄想狂に「悪化」しているのですが、その間、ガーナの小学校建設募金をしているマンフィーと知り合い、隣の駅でネパールカレー屋を営んでいるグルンさん夫婦とその子のジャッティンと仲良くなり、そして今度は俊麗夫婦と再会しました。

嘗て当てずっぽう且つ無意識に蒔いた種や、あるいはプロットした点と点が結びつて線になりかけているのを最近感じるようになりました。

なんかうっすらとはあるのですが、そこはかたない手応えのようなものを感じて、大変嬉しく思っています。春かな？とも思います。

たったひとつ、家族のことを除けば。

ひとしきり吞んで、食べて、おしゃべりをした後、店を出ることにしました。

「新しい家まで遠い？」

「歩いて、1時間くらいかな？」

「大変」

「それより、お金ないから、前みたいにそうそう毎日これないぞ」

「うん。でも、又来て。你、再来！（ニー、ツァイライ）」

「分かった。我、在来！（ウォー、ツァイライ）」

俊麗は英語が全く水の中の金槌みたいに出来ないので、英語では言いませんでしたが、こころの中で続けて

「as many times as possible」と言いました。出来るだけ来るよと。

どうも自分に対する身びいきが強いせいか、あるいはそれを欲していて、幻影でもみているのか、僕にはまたまた俊麗の瞳が少し湿っているような気がしないでもありませんでした。そうして、のぼせやすい体質の僕は、毎日来られるよう、早く稼げるようにならなくちゃな！ドスコイどすこい！と思いました。やはり男の原動力のトリガーは、煎じ詰めれば、恋

しているいないに関わらず、はたまた良きにつけ悪きにつけ、女の視線以外の何物でもないのだと、はっきりそう感じた次第です。

(注：写真は俊麗ではありません。悪しからず)